

平成27年度第3回呉市総合教育会議議事録

日 時 平成28年3月24日（木） 15時～

場 所 呉市役所7階756～758号室

呉 市

平成27年度第3回呉市総合教育会議次第

(日 時) 平成28年3月24日(木) 15時～

(場 所) 呉市役所本庁舎 7階東側 756～758号室

- 1 開 会
- 2 市長あいさつ
- 3 教育長あいさつ
- 4 協議・調整事項
呉市教育大綱について
- 5 報告
平成28年度新規事業について
- 6 意見交換
- 7 閉 会

出席者構成員

呉	市	長	小	村	和	年
教	育	長	工	田		隆
教	育	長	森	尾	敬	介
教	育	委	水	野	良	行
教	育	委	舩	尾		慎
教	育	員	香	川	治	子

出席関係職員

文	化	ス	ポ	ー	ツ	部	長	末	重	正	己
ス	ポ	ー	ツ	振	興	課	長	河	下	寿	昭
教	育	部	長	寺	本	有	伸				
教	育	総	務	課	長	清	水	和	彦		
教	育	総	務	課	課	長	補	追	原	重	臣

出席事務局職員

総	務	部	長	大	下	一	弘			
総	務	部	副	部	長	山	本	雅	之	
総	務	課	長	小	森		強			
総	務	課	課	長	補	佐	平	岡	和	浩

会議傍聴者

2名

○大下総務部長 定刻となりましたので、ただいまから、平成27年度第3回呉市総合教育会議を開催させていただきます。本日の司会を務めさせていただきます総務部長の大下と申します。どうぞ、よろしくお願いいたします。

それでは、開会に当たりまして、小村市長から御挨拶を申し上げます。

○小村市長 年度末の大変お忙しいところ総合教育会議にお集まりいただき誠にありがとうございます。先ほど小学校の新一年生に黄色いランドセルカバーとかワッペンやホイッスルを寄付していただき、子どもたちのランドセルにそのカバーを付けるという行事を行ってきたところでございます。この時期はピカピカの一年生が生まれる、一年の中でも何となく明るい希望の持てる時期であります。皆様方には、呉の子どもたちが健全に成長していくために色々と御尽力を賜っておりますこと、心から感謝を申し上げます。

さて、第1回目の会議では、長期総合計画の基本計画編のうち、教育分野を呉市教育大綱と位置付けることを確認し、その際、委員の皆様から色々いただいた御意見を念頭に、呉市教育大綱（案）を作成し、先月開催しました第2回目の会議において、その大綱（案）について御承認いただいたところでございます。本日の会議では、先日の呉市総合計画審議会におきまして、長期総合計画の後期基本計画の報告がなされましたので、最終的な大綱について説明をさせていただくこととしております。

また、本日の協議事項が終わりました後、平成28年度の新規事業について、概要説明を受けまして、その後、委員の皆様と意見交換をさせていただきたいと考えております。本日のテーマでございますが、大綱の目標に「郷土を愛する心豊かでたくましい呉の子どもの育成」を掲げておりますので、この郷土を愛する心につきまして、委員の皆様からそれぞれ御意見をいただきたいと思いますと思っております。

呉市の教育行政がより質の高いものになることを御祈念申し上げ、御挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○大下総務部長 続きまして、工田教育長より、教育委員会を代表していただきまして、御挨拶をお願い申し上げます。

○工田教育長 改めまして、皆様こんにちは。今、市長さんから明るい話がありました。皆様にも明るい話をしたいと思えます。二日前に市内の両城中学校にお手紙が届きました。差出人は呉市の女性連合会の松本会長さんでございました。このお手紙を紹介して心温まる気持ちになりたいと思えます。

「今日はうれしい事に出会いましたので、ペンを走らせております。3月17日8時38分の広島方面行きの電車を呉駅のホームで待っておりました。ふと気が付くと沢山の中学生たちが階段を下りて来ました。こんなに大勢乗るのは大変だと思いました。生徒たちは指導する先生の指示に従いきれいな行列をつくりました。先生も生徒たちも実に静かで声を立てる様子も見えない程の行動に感心いたしました。車内に入っても実に静かで空席があっても誰も席に座ることもなく途中の駅からの一般客が着席していました。広島駅で下車されたので思わず校名を聞きましたら、両城中学校と

の答えをいただきました。今日はとても良い機会に巡り会ったとうれしい一日となりました。指導される先生方、素直に受け入れる生徒さんたち、本当にありがとうございます。この若者たちがこの呉市を郷土として愛してくれるに違いないと心強いものを心より信じる一日でした。私は女性連合会に属しておりますが、一番の目標はこの呉市を「美しい愛すべき呉市として次世代につなげよう」という一点にしぼり努力しています。今日の出会った事柄で、なお一層知恵をしぼり努力を重ねたいと思いました。突然のお手紙で失礼いたしました。ありがとうございました。」というお手紙でございました。受け止め方は皆さんそれぞれだと思います。色々と受け止めていただければと思います。

○大下総務部長 ありがとうございました。それでは、これより協議・調整事項に入りたいと存じます。ここからの進行は、本会議を招集しました市長にお願いいたします。市長、よろしくお願いいたします。

○小村市長 それでは、私の方で会議を進めさせていただきます。まず、協議事項の呉市教育大綱につきまして、事務局から説明をお願いします。

○小森総務課長 協議事項、呉市教育大綱につきまして、御説明いたします。前回2月の第2回総合教育会議で、呉市教育大綱（案）について御承認いただいたところでございますが、改めまして、その概要を御説明させていただきます。

資料を御覧ください。大綱の表紙でございます。計画期間は平成28年度から32年度までの5ヶ年で、これは呉市長期総合計画の後期基本計画の期間に合わせたものとなっております。

資料を1枚めくってください。1の策定の趣旨でございます。平成27年4月1日にいわゆる改正地方教育行政法が施行され、3行目を御覧ください。地方教育行政における責任の明確化、迅速な危機管理体制の構築、一層の首長と教育委員会の連携強化が求められていること。さらに教育の目標や施策の根本的な方針を示す教育に関する大綱を首長が策定することとされたことを記述し、最後から3行目呉市教育大綱は長期総合計画並びにまち・ひと・しごと創生総合戦略等の趣旨を十分に踏まえて、平成28年度から5年間の呉市の教育の目標や施策の根本的な方針を策定したものであることを記載しております。

次に2の目標でございます。前回御説明したとおりでございますが、郷土を愛する心豊かでたくましい呉の子ども育成としております。

1枚めくっていただきまして2ページをお開きください。3の各分野における取り組みの方向で具体的な大綱の内容でございます。前回の会議では前期基本計画との変更点などを見え消しの形でお示ししましたが、その内容につきまして若干の語句等を修正し、先日の22日に開催されました呉市総合計画審議会に第4次呉市長期総合計画の後期基本計画編中の第3節教育分野の3項目として、報告したものでございます。

では概要を御説明します。まず学校教育の1の現状及び課題でございます。(1)幼児教育では保育・教育内容の充実や家庭等との連携による総合的な幼児教育を行う必要があること。次に(2)義務教育では小中一貫教育を充実させていくとともに、特色ある呉の教育を推進していく必要があること。併せて学校施設の整備など計画的に

行う必要があること。次に（３）高等学校教育では引き続き郷土の未来を切り拓く心豊かでたくましい人材の育成を図る教育を進める必要があることとし、続いて２の政策の基本方針として（１）幼児教育では地域ぐるみの教育の推進など幼児教育の充実を図ること。（２）義務教育では小中一貫教育の推進、企業や高等教育機関との連携による呉市の特性を活かした教育活動を推進し、併せて学習効果が高く学びやすい教育環境の整備など義務教育の充実を図ること。（３）高等学校教育では個に応じた指導の充実、郷土・社会に貢献できる人づくりの推進など高等学校教育の充実を図ることとしております。資料の３ページを御覧ください。次に３の計画期間中に取り組む代表的な施策でございます。（１）幼児教育の充実では①幼児教育の充実の１項目を、（２）義務教育の充実では①教育内容の充実ほか６項目を、（３）高等学校教育の充実では①学力の向上による進路実現ほか３項目を掲げております。

続いて社会教育の１の現状及び課題でございます。（１）家庭教育・青少年教育では家庭・学校・地域が連携して子どもや若者を育てるという環境づくりを推進する必要があること。１枚めくっていただきまして４ページをお開きください。（２）生涯学習の推進では市民が学び活動しやすい環境を整備し、学んだことを活かせる社会をつくる必要があることとし、続いて、２の政策の基本方針として、（１）家庭教育・青少年教育では、青少年育成活動の推進により、家庭教育・青少年教育の充実を図ること。（２）生涯学習の推進では、各種講座の開催や地域活動の担い手育成など、市民の学習意欲を高め、学習成果を地域に還元できる環境を整備することにより生涯学習を推進することとしております。次に３の計画期間中に取り組む代表的な施策でございます。（１）家庭教育・青少年教育の充実では①保護者の教育力の向上ほか２項目を、（２）生涯学習の推進では①推進体制の整備ほか１項目を掲げております。

最後に文化・スポーツの１の現状及び課題でございます。（１）文化の振興では更に市民が質の高い多彩な文化に触れる機会の充実を図るとともに、文化活動の活動主体を支援する必要があること。５ページを御覧ください。また（２）スポーツの振興では一人一人のライフスタイルやライフステージに応じた多様なスポーツ種目の普及・振興を図る必要があることとし、次に２の政策の基本方針として（１）文化の振興では新たにオープンしましたくれ絆ホールなどを活用し、質の高い芸術・文化事業の提供や文化祭等を実施し文化の振興を図ること。次に（２）スポーツの振興では大学等との連携による競技力の向上や健康づくりの推進と市民ニーズに対応した施設整備や既存施設の高機能化などを行いスポーツの振興を図ることとしております。次に３の計画期間中に取り組む代表的な施策でございます。（１）文化の振興では①質の高い文化に触れる機会の拡充ほか３項目を、（２）スポーツの振興では①本物のスポーツ体験及び競技力の向上ほか２項目を掲げております。

以上、協議事項の呉市教育大綱につきまして説明を終わらせていただきます。今後は、この大綱をより多くの市民の皆様にご覧いただくため、ホームページなどを活用して広く周知して参りたいと考えております。

○小村市長 はい、御苦勞様でした。それでは、協議事項につきまして、御質問なり御意見がございましたら、お願いいたします。いかがでしょうか。

[発言する者なし]

○小村市長 この教育大綱は、皆様一度見ておられますのでよろしいでしょうか。それでは御発言がないようでございますので、この内容をもちまして呉市教育大綱とさせていただきます、平成28年度から平成32年度までの5年間、教育委員会の皆様と連携して取り組んで参りたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。御協議本当にありがとうございました。本日予定しておりました協議事項につきましては、以上とさせていただきます。

続きまして報告に入らせていただきます。平成28年度新規事業について関係部から説明をお願いします。まず文化スポーツ部からお願いします。

○末重文化スポーツ部長 文化スポーツ部長の末重と申します。文化スポーツ部の重点事業のうち新規事業について御説明をさせていただきます。資料の方を御覧ください。大学と連携したアスリートの育成についてでございます。この事業は1の事業の経緯、趣旨に記載しておりますが、昨年8月に日本体育大学とスポーツと健康づくりの分野におきまして、本市と大学それぞれが有する教育資源を有効かつ適切に活用することによりまして双方の発展と社会貢献を目的としたスポーツ振興に関する協定を締結しております。今後、大学が持つ専門的な知識、ノウハウ、人材等を積極的に活用し、本市のスポーツ振興及び健康づくりにつなげていくとともに、トップアスリートを育成し、スポーツ王国くれの復活を目指すものでございます。

平成28年度に実施して参ります具体的事業でございますが、資料の一番下の施策推進のイメージに記載しております5つの事業を現在考えております。右側の推進事業の欄を御覧ください。まずトップアスリート・指導者育成事業でございますが、優れた体力・運動能力を有します小・中・高生と指導者を日体大に派遣いたしまして、トップレベルの指導者から指導を受けることでレベルアップを図り、それを今後の指導に活かすというものでございます。将来的にはオリンピックに出場できるトップアスリートを育成したいとの思いでございます。

2つ目は、中学校運動部活動への講師招へい・技術指導でございますが、中学校運動部活動におきまして、大学の優れた指導者や学生から直接指導・助言を受けることで、技能や技術を習得するとともに、教職員の指導力向上を目指すものでございます。来年度は、調整中ではありますが、剣道部をお願いしたいと考えております。

3つ目は、大学クラブ合宿の誘致でございますが、これは全国トップレベルであります日体大の運動部に呉市に来て合宿をしていただくというものでございます。そしてその合宿の中でスポーツ少年団をはじめとする児童・生徒に指導をしていただき、競技力の向上を図るものでございます。

4つ目としましては、呉とびしまマラソンへのゲストラナー招へいでございます。この2月28日に開催いたしました第7回呉とびしまマラソンの10キロの部に2名の参加をしていただきました。来年度も箱根駅伝に出場する陸上競技部の選手を招へいしまして大会を盛り上げてもらうものでございます。

最後に、健康ウォーキング大会を通じた健康づくり普及啓発でございます。大学所属のトップアスリートに毎年実施しております呉市ウォーキング大会に参加してもら

うとともに、健康づくり講演会の講師をしていただき、市民の健康づくりのための運動習慣の定着を図るものでございます。来年度は元体操選手でロンドンオリンピックにも出場され、現在、日体大の助教授であります田中理恵さんにお問い合わせできればということで現在、大学側と調整を行っております。

来年度は以上の5事業を考えておりますが、今後におきましても日体大との連携によりまして本市の選手がオリンピックや国民体育大会などで活躍し市民の皆さんがその姿に夢と希望、郷土の誇りを感じることで地域の一体感が醸成され、活力に満ちた元気な呉づくりにつながればと思っております。説明は以上のとおりでございます。

○小村市長 疑問の点等があるかと思いますが、一通り説明をしてから御質問があればお願いしたいと思います。引き続きまして教育部からお願いします。

○寺本教育部長 教育部長の寺本でございます。私の方からは新規事業2点を説明させていただきます。まず、ふるさと子ども夢実現事業についてでございます。資料の1の事業の経緯、趣旨でございます。この事業を通しまして、子どもたちに呉への愛着を深めさせて、呉市へ貢献する意欲を高めるきっかけとするために行います。具体的な内容でございますが、施策推進のイメージを見ていただけたらと思います。これまで平成15年から行っておりますふれあい夢議会でございます。この事業を活用しまして、各中学校区から自分たちの地域の活性化に向けた具体的な提言を募集し、募集された提言をそこで審議し、市長さんや議長さんに要望し審査を得た上で事業として具体的に実施したいと考えております。予算額は30万円でございますが、この提案されて採用された学校に1校当たり10万円程度予算措置をして、具体的に言いますと子どもたちが地域のお宝探しとかを紹介するとか、ビデオに撮って紹介したり、あるいは地域の産物を修学旅行で売ったりとか、そういったものを今イメージしてはいますが、子どもたちの発想により、もっと膨らませてより子どもたちが地域に愛着を深めるような事業にしていきたいと思っております。

次はものづくり体験事業でございます。これは地元企業の世界を舞台に活躍するものづくり企業のそういった方々の高度の技術とかを子どもたちに伝えていただいて、子どもたちがふるさとにはこういったすばらしいものがあるんだとかということを通して、愛着を深めていくことを今イメージしてはいます。施策推進のイメージを御覧ください。ものづくりに関わる地元企業や教育機関から出前講座という形で、学校に講師を招へいます。そして中学校1年生の授業あるいは部活動の中でのものづくり体験を進めていきたいと思っております。中学校2年生になりますとキャリアスタートウィークで具体的に企業の方も体験しますのでつなげて、ふるさと呉にはこういったすばらしい技術があることをしっかりと体験しながら、呉のよさを再確認させたいと思っております。このような事業を計画してはいます。以上でございます。

○小村市長 はい、ありがとうございました。この平成28年度の新規事業につきまして何かございますか。日体大の事業ですが、子どもやトップアスリートだけを派遣するのはですか。それとも指導者だけですか。

○末重文化スポーツ部長 特にながらんでいる小中学生、高校生も含めますが、トップ

アスリートの卵と指導者も一緒に大学に派遣して、日体大で経験してもらうメニューでございます。

○**小村市長** クラブの合宿誘致14万円で大丈夫ですか。

○**末重文化スポーツ部長** 基本的には大学の方で経費は出されますが、市内での移動のためのバス代とかを考えております。

○**小村市長** それではよろしいですか。引き続き意見交換に入らせていただきます。

今回は「郷土を愛する心を育む」ということをテーマといたしまして、皆様の思いや御意見を伺いたいと思っております。それでは順次御意見をいただきたいと思えます。最初に香川委員さん、いかがでしょうか。

○**香川委員** 先日、呉市手をつなぐ育成会の50周年記念で、NPO法人のこのゆびと一まれの惣万さんをお招きして講演を行ったのですが、最後の締めくくりにおいて、色々活動をしている中で、富山で生まれてよかった、富山で暮らしてよかった、最後に大好きな富山で死にたいというのが締めくくりの言葉でした。そして人は人に集まるという話もされました。そこで富山を呉市に置き換えまして、呉で生まれてよかった、呉で暮らしてよかった、最後に呉で暮らしたいということができたらいいなかなと思えます。

もう一つふるさとというのは、人には三つあると言われていています。一つは生まれた所がふるさと、もう一つは子育てをした所がふるさと、三つ目は高齢期を過ごしていく所がふるさとと言われていています。そのことで自分の事で言いますと、私は呉市の宮原で生まれて、宮原で子育てをして、大学のために少し広島に居ましたが、また高齢期を今、宮原で過ごしています。非常に呉がよかったと思えます。私の子どもたちも呉から出ていたのですが、長男と三男が呉に帰ってきて、次男は広島にいます。私は宮原で生まれまして、造船所のクレーンや大きなタンカーが造られているところを見ながら、夕方の暗くなる頃まで走っていたような子ども時代を過ごしました。仕事に就いてからは、国立呉病院で7年間仕事をしまして、その間子育てをしながら、そして国立病院を辞めてその後PTA活動を行い、それまでは地域との関わりがなかったのですが、PTA活動をすることによって、地域の色々な人とつながりができました。それから保健所に勤務することになって、PTA活動での人とのつながりがよくなったと思えます。色々な外の人とのつながりがあって、保健所に勤務して、民生委員さん、女性会の方、自治会とか色々な方に支えられました。私は健康づくりは地域づくりというモットーを持っており、多くの方に支えられて仕事ができたと思いました。その後、退職してからは地域で地区社協あるいは宮原のまちづくりに関わっていますが、今までの人とのつながりが今につながってきていて、人とのつながりの大切さを知らず知らずのうちに子どもの頃に育てられたのだと思えます。

退職後、地域で過ごしていますが、宮原では、まちづくり推進委員会におきまして、ホテルの里というのを神原公園で自治会の方が中心となって始めました。一部カジオカL.Aの方も加わっていただいて、掃除のときには小学校高学年や中学生も全員参加で自治会も一緒になって掃除しています。あじさいを植えたり、色々植樹したり、

段々そこがよくなって、一昨年ビオトープ大賞を受賞しました。この掃除には宮原高校の学生さんも去年から参加し、だんだん地域の中で広がりができています。そうなることで子どもたちも宮原に愛着を持つのかなと思っています。それから地域は子どもたちが成長する場であり、自分たちの老後の受け皿でもあるので、やはり子どもからお年寄りまで、みんなが地域で住みやすい子どもの居場所づくりであるとか、高齢者の居場所づくりを模索する必要があり、今、お茶の間サロンをやっています。地域が子どもたちを鍛え、家庭で育てるのを地域で支援し、学校で子どもたちのいいところを磨いていければ、子どもたちにいいのではと思っています。地域の人とのつながりが、子どもの愛着につながっていくと思っています。幼児期をどの様に過ごすかが大人になってきてから大事で、今回も幼児教育のことを大綱にしっかりと盛り込んでいただけたので、非常にいいと思っています。

○小村市長 ありがとうございます。呉は温暖な気候でいいところです。そこで生まれて、そこで育ってよかったなという思いが、本当に心の中にあれば、次の世代にもそのような心がつながっていくと思います。続きまして船尾委員さん、お願いします。

○船尾委員 私も香川委員さんに共感するところがあります。地域というところに着目していますが、まず、私もPTAに関わらせていただいて、地域の人たちと知り合うことができ、初めて過ごす土地ではあったんですが、関わることもでき、色々な活動をしていることも分かりました。今回、教育委員というお仕事をさせていただいて、今度は学校の中でどういったことをしているのかということをしつかりと見させていただいています。現在、小中学校を通して郷土を愛する心を育む教育をしていると思っています。

学校の中では様々な教科の中で、先生方が色々工夫しまして、地域の人との関わりができることであったり、呉や地域の歴史を学んだり、色々な名勝を尋ねたり、地域の人とのふれあいもその一貫として、様々な取り組みを色々行っています。今回の新規事業の中でも、ふるさと子ども夢実現事業はすばらしく、子どもたちも体験できるものと思います。そういった中で、子どもたちは、学習を通して郷土を愛する心をしっかりと少しづつ構築していると思っています。学校にこれ以上求める親が押しつけるのではなく、今度は家庭や地域が果たすべき役割をどう果たすべきかを、郷土を愛する心を育むことは、その地域の大人に育ててもらうことで、いかに人と関わるか、地域の人に育ててもらうかということだと思っています。今の時代、核家族の中で、おじいちゃんやおばあちゃんに昔話を伝えてもらっていることもないと思いますし、また、近所でもコミュニケーションも薄くなってきていると思います。大人たちの中にも自分だけがいいという方もたくさんいまして、なかなかまわりの子どもたちと関わろうとしないという現状があります。しっかりと地域が団結して、とんどであったり、地域の見回りや朝の旗振りをリタイヤされた方が関わって子どもたちを育てている地域もあります。共働きの多いなかで、地域の力の活用がこれからのキーワードだと思います。ハード面だけではなく、そのようなソフト面において、子どもたちにとってよりよい環境づくりをすることについて、更に呉市全体で大人全体で意識を高めていくことが大事だと思います。

最後に、人を育てるのは、人と話をしましたが、大綱の社会教育の中にも保護者の教育力の向上、地域の教育力の向上に取り組むということがしっかりと明記されていますように、これからの呉のまちを担っていく子どもたちに将来地元呉で働こう、活躍しようという子どもたちを育てていくためには、今の大人がしっかりと意識を持ってやっていくことが大切だと思います。そのような呉市にぜひ今後なっていくことを願っています。

○小村市長 ありがとうございます。本当に大人の方が呉市のことをいいまちだ、誇れるまちだということをおっしゃると自然と子どもに伝わります。そのことが欠けている大人の方も現実にはいますが、子どもの頃からそのように育てていって何年か後には地元呉で働こう、活躍しようという子どもたちを育てていく、そのようなまちなしにしなければと思っています。保護者の教育といいましても、やはり難しいところもあります。PTAの集まりは、みんなが思いを共有することができる団体であり、PTA活動は大事だと思っています。では続きまして水野委員さん、いかがでしょうか。

○水野委員 郷土を愛する心を育むということで、非常に大きなテーマですが、今大体、香川委員さん、船尾委員さんが言われたことで、ほとんど網羅していると思います。同じようなこととなりますが、やはり、呉市が大好き人間だと思います。呉市が大好きという子どもを育てなければいけないと、大好きになれば、呉を愛する気持ちに変わってくると思います。小さいときから、家庭がうまくいっておけば、子どもに家庭内のこと、家のまわりのこと、のよさを教えていく、小学校に入れば、その学区での呉のいいところを勉強させていく、中学校になれば呉市全体にと、段々と広げていきます。

呉のいいところが教育大綱の中に入っていますので、この大綱はよくできていると思います。全てができることは難しいですが、及第点の70～80%までいけば、相当な成果が出てくると思います。それから、この教育大綱は学校だけでなくホームページにも掲載されますので、市民の方への周知も図れるとは思いますが、もう少し優しい言葉で市民に伝え、その上で市民の方も一緒に巻き込んでやっていくことが、連携や人とのつながりになると思います。

これからの子どもたちは少子化で大事ですから、いい形で育てていくにはみんなの力が必要であり、みんなが一緒にやるんだと呼びかけて、みんなが意識を持っていただけたらと思います。

私は歯科医です。最近呉市は本当に虫歯が少なくなって、全国でも優秀な市になっています。検診に行きますと異常に虫歯が多い子とか歯茎がおかしい子が中にはいます。その時に、私は先生に家庭内がうまくいっているか聞きます。歯をきれいに磨けない無関心な親の場合、子どもが磨けていないケースがありますから、先生方に話しながら、少しでもいいようになるようにと思っています。みんながサポートしていく。そういうことをしています。

呉には世界でも有名な企業がありますし、トップアスリートも輩出しています。呉がいいんだという気持ちを持っていただけたら、そういう形での教育をやっていただければと思います。また市民全体で考えていけないといけないと思います。呉に定住

したり、呉で子育てをすることになりますと仕事が必要になり、雇用の問題まで絡んでくると思います。子育てして落ち着いて安定していくためには、そこで生活できないとなかなかできません。みんなが考えることによって、子どもたちがいい形になり、呉が大好きだという人間をつくってあげればと思っています。

○小村市長 ありがとうございます。本当に呉が大好きなんだというそういう大人が増えれば、自然に子どもたちに伝わっていくと思います。それでは、森尾委員さんお願いいたします。

○森尾委員 まずは子どもたちが呉にぬくもりを感じる事ができれば、きっと子どもたちの心に届くと思います。そのためには子どもたちの胸に訴える教育が必要だと思います。これは難しいことだとは思いますが、古い言葉なんですけど、鉄は熱いうちに打てという言葉があるように、今、進められております幼児から児童へのつなぎ教育がこれからは非常に大事な鍵を握ってくると思っています。それには幼児教育と義務教育に携わる教師間でつなぎ教育を共同と捉えて、より連携を深めることで、お互いが理解し合う、これを反映していけば、子どもたちをよい環境の中で育てることができます。また、子どもたちに夢を与えることが大切であろうと思います。人によっては夢と現実とは違うと言うかもしれませんが、呉にはたくさんの教訓となるものがあると思っています。その中で呉の歴史を知らしめるということも愛着につながると思います。これは、戦艦大和の建造に代表されますものづくりの技術力の優秀さは万人が認める場所と思っています。この優秀な技術力は今は日本を代表する企業でありますトヨタ、三菱重工、IHI等大企業の技術のルーツとなっています。歴史的な事柄を教えることで、呉のよさとともに、ここに夢が広がってくると思っています。それを1つの手助けとして、既に実施されていますキャリア教育をもっと充実させていただきたいと思っています。このためには地元企業と関係をもっと深めて欲しいということと、子どもたちがもっと企業を知りたいという意欲につながれば、地元のよさを更に認識させることができますし、これがひいては呉を愛する心を育む1つの手段になると思っています。

○小村市長 ありがとうございます。それでは工田教育長よろしく申し上げます。

○工田教育長 私は、教育委員会というところの事務局に勤めていまして、今日も新事業の報告がありました。様々な施策の是非は子どもが育っている姿でしか評価できない風に思っています。今日冒頭の挨拶で中学生の姿を紹介しましたが、3月の半ばの新聞に子どもたちがよく投稿するヤングスポットというコーナーがありまして、そのコーナーに市内の中学校の3年生です。こんな記事がありました。これは校長会でも教頭会でも紹介いたしました。ちょっと読んでみます。「私には『ありがとう』と言いたい人たちがいる。それは近所の人たちである。今年の春、私の家が火事になった。両親は留守で、私が帰宅すると、真っ黒い煙が上がっていた。私は何が起こっているのか分からず、泣き叫ぶばかりだった。」こういう書き出しで、「その時にそんな私を助けてくれたのが、近所の人たちだった。異変に気づいて助けに来てくれた人、それから消防車を呼んでくれた人、それから家族に連絡をしてくれた人、不安な自分のそばに付き添ってくれた人。全て近所の人だった。私は何度『ありがとう』と言っても言い足りない」

とこの子はこの投稿記事の中で言っています。私が一番心をひかれたのが、「この経験から、私は地域のつながりと優しさを感じた。」とこの中学3年生が言っているところです。そして結びに「私の住む地域はとてもよいところだ。ここに住み続け、これからは私が近所の人たちを助けていきたい。」とこういう結びをしています。よく市民協働でも自助・共助・公助というものがありますが、もう一つよくもじって多くの人が言います言葉があり、近所といいます。

私たちの年代は、セピア色の世界で昔はこうだったよねと近所のおじちゃんやおばちゃんと言うようなことを、昔を懐かしむ思い出だけで終わっていないだろうかと思えます。今頃の子は、今頃の親は、というようなことにつながって、我々だけが昔のそういったことの思い出に浸るだけで、このことが伝わっていないことは私たち大人の責任だと今感じています。今の親年代は、私が教職の場に立って教えた子どもが親になっている世代ですが、その世代がどうなのかと振り返ったとき、やはり今こそ忘れかけているふるさとを愛する気持ちがどうなのだろうかということ強く感じています。ふるさとを愛する気持ちはどんなことから思うのかといいますが、この中学生の近所の人に対するありがたの気持ちではないですけど、人とのつながりでしかないと思います。近所のおじちゃん、おばちゃん、にいちゃん、ねいちゃん、弟、妹たちこういう子どもたちと幼いときにどんな体験やつながりを持ちながらすごしているかが、一番ふるさとを懐かしむ気持ちにつながっていくと感じています。よく県人会で駅伝とかマラソンで盛り上がります。呉を離れてもよそに出ている、呉市出身の〇〇会があったりとか、東京に出ている同窓会があったり、昨日も子ども会の連合会の会長さんとお会いして、今回も中学生の卒業式に出たとき子どもたちがものすごく元気よく呉市歌を歌っていたと、涙が出るのだと言っておられました。やはり同窓会に出れば昔を懐かしんで、その当時の学校の校歌をみんなで歌ってみたり、私は今の呉で育てている子どもたちは前教育長がいい財産を残していただいたと思っています。思い切った英断で呉市歌を全ての学校で、何かで集まったときに校歌と同じように呉市歌を歌いながら、中学校のときにこんな悪さをしたねとか、怒られたね、というような話ができることが本当にふるさとを愛している気持ちなのだろうと非常に強く感じています。この中学3年生のようにこんな感性を持った子、私はこんな子を育てたいと思っています。自分が近所の人に助けられて今度は自分が近所の人を助けたいと、呉を愛するというのは、まずは自分の近所でできあがっていくと強く感じています。

この大綱が絵に描いた餅に終わらないように、この中身を充実させなければと感じています。

○小村市長 ありがとうございます。火事になって近所の人々が助けてくれたという体験、こういう思いというのは生涯の宝になります。

それでは、私の方からもせっかくの機会ですので、思いを述べさせていただきます。

私は蒲刈の島で子どもの時代を過ごしまして、本当に海の近くで育ちました。小学5年生のとき、初めて遠足で呉に連れて来てもらい、当時の播磨造船（IHI）の大きな船ができているのを見まして、呉はすごいまちだというこの感激は忘れられませ

ん。それまで5万トンもの船なんか見たことがなかったですから、こんな船を造りたいということを遠足から帰って両親に話したら、母親が呉は昔から、もっと大きい戦艦大和を造ったのだという話をしてくれました。そのことが呉のまちへの誇りでした。

それでも高校生になりますと東京に行きたいという思いがありまして、大学を卒業したときに同級生が当時の東洋パルプに就職が決ったのですが、私はそのときのことを鮮明に覚えています。ここまで来て呉に帰るのか、東京で一旗揚げないのかと正直な気持ちがありました。東京で暮らす中で両親が呉で世話になっていきますし、毎年数回は呉に帰っていました。一通り人生が見えてくる40代後半頃にはいつか呉に帰らないと、とっていました。子どもの手が離れたら自分は第二の人生として再就職はないかもしれないが、呉に帰ろうということはずっとしていました。そういう者が帰っていきたいというまちであることが非常に大事であると思います。これは理屈ではなくて、やはり心情の中に生まれているのだと思います。そのためには周りの大人、特に親が呉はいいまちなんだ、すごいまちなんだと常日ごろからそんなスタンスで子どもに接することが大切であると思っています。それなりの立場の人で、時々ふるさとを悪くいう人がいますがこれは困ります。

自分が子どもを育ててみて、何がふるさとかという一番には親がいること。二番目には同級生がいることです。同級生も何もいなかったらふるさとではないと思います。東京で子どもを育てていまして、子どもが否応なく中学から私立の学校に行き、全く地域になじみがなくなりまして、友だちがいませんから、こういう育て方をしたら、ふるさとなが子育てることになるなと思ひまして、その時すごく怖い思いをいたしました。何とか高等学校ぐらいまでは地域の中で育てられるような教育環境、(親の考えもありますけど、)これは必要だと思っています。私は、若い人がみんな東京に行きたがるのは当たり前とて思ひましたが、市内の高校三年生を対象に行つたアンケートでは、進学希望者のうち六割が呉市を含む広島県内を希望し、就職希望者の五割が呉市内への就職を、県内を含めると九割となつています。自分の感覚が昭和40年代の高度成長時代のときですから、随分と変わつてきて思ひています。それに我々は答えていく必要があると思ひています。聞くとやはりいいまちだと若い人たちも言ひます。市民としても行政としてもそういった声に応えられるまちづくりをしないとイケないと思ひています。

ふるさと学というのができますかね。科目といたしまして。一年ぐらひかけて歴史や公民と同じように、ふるさとを学ぶというのもあると思ひます。

最後になりますか、本日3回目の会議では、皆様の御協力によりまして、呉市教育大綱を策定することができました。本当にありがとうございます。また、委員の皆様から貴重な御意見もたくさんいただきました。今後は、幼児教育、義務教育、高等

学校教育，そして社会教育・文化スポーツの充実を図り，未来を担う子どもたちの育成につながる施策を教育委員会部局と市長部局とがしっかり連携し，一体不可分でありますから，よくよく相談しながら教育施策の推進に努めて参りたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

本日は，誠にありがとうございました。

○大下総務部長 それでは，これをもちまして，平成27年度第3回呉市総合教育会議を終了させていただきます。

本日は，誠にありがとうございました。